

一房のぶどう



第10号

平成19年5月15日

編集・発行 / あきる野市教育委員会 〒197-0814 あきる野市二宮350

042(558)1111(代)

中央図書館が
8月1日に開館します！



中央図書館

新しい図書館ネットワークで
充実したサービスを
展開します！



五日市図書館



増戸分室



東部図書館エル

あきる野市教育推進スローガン

人が育ち 人が輝く あきる野の教育

いじめ
撲滅
3原則

あきる野市教育委員会は、この三原則で「いじめ」に立ち向かいます。

するを許さず

誰よりもいじめる側が悪いという認識に立ち、毅然とした態度で臨む。

されるを責めず

いじめられる側に立ち、細心の注意を払い親身の指導を行う。

いじめに第三者なし

見てみぬふりもいじめととらえ、いじめをさせない、見逃さない環境づくりに取り組む。

『社会教育』の重点的な取組

市民の学習と交流の場の整備、自主的な活動への支援等を行い、協働を通して、まちづくりにつながる生涯学習の推進と文化、スポーツ・レクリエーションの振興、子どもの読書活動の推進と青少年の健全育成を図ることを目標に施策を展開します。

地域全体で子どもを育てる環境づくり活動を推進します

次代を担う子どもたちの健全な育成と安全・安心できる環境づくりを目指して、学校・家庭・地域との連携により、子どもの読書活動の推進及び放課後子どもプランの推進を図り、さまざまな体験を通じた子どもの居場所づくりを進めます。

子ども読書推進計画の策定 放課後子どもプランの推進 青少年体験活動支援センターの運営と生涯学習支援者バンク事業の充実 「家庭の日」推進事業の実施 家庭教育講座の開催 図書館人材育成の充実 青少年健全育成地区委員会と連携した事業及び「がくどうひなんじょ」の整備

各学校、文化団体連盟、体育協会、スポーツ少年団、郷土芸能連合会、ボーイスカウト・ガールスカウト連絡協議会、青少年健全育成地区委員会、中学校区健全育成推進会議、等各種団体ほか

秋川キララホール、五日市郷土館
二宮考古館、指定文化財等

秋川体育館、五日市ファインプラザ、市民プール、いきいきセンター、市民球場ほか屋外運動施設

市の歴史・文化、芸術に親しみ、伝統文化の継承と地域文化の創造に向けた環境づくりを進めます

市民が芸術活動に触れる機会を確保するとともに、市内に伝わる有形・無形の文化遺産を保護継承するための活動を支援します。

キララホールコンサートの開催 芸術文化事業の実施
地域の子もたちへの伝統芸能等継承活動への支援（伝統文化子ども教室等） 伝統芸能保存継承活動への支援 「さわれる土曜日」体験教室の実施 指定文化財保存事業への支援 埋蔵文化財の調査及び文化財保護意識の醸成

中央図書館（8月開館）、東部図書館エル、五日市図書館、増戸分室、戸倉分室、小宮分室

健康で、生きがいにつながる市民スポーツの振興を図ります

子どもから高齢者まで気軽に親しみ、楽しむことができるスポーツ・レクリエーション活動と健康づくりにつながる安全で利用しやすい環境整備を進めます。

市民球場等の設備整備 各運動施設の維持管理 各種スポーツ団体の育成 生涯スポーツの推進 健康の維持・増進を目指したスポーツの普及・振興 地域におけるスポーツ活動への指導支援 地域におけるスポーツ活動への指導支援

中央公民館、あきる野ルピア生涯学習センター

市民の学習活動を支援し、学習成果を生かした社会参画の場づくりを進めます

生涯学習コーディネーター、市民解説員等指導者の育成と生涯学習支援者人材バンクの充実 生涯学習推進拠点としての公民館活動、生涯学習センター事業の充実 市民との協働による学習機会の整備 高齢者をはじめ、市民の社会参画機会の提供 良好な施設の維持管理と利用の促進実施

さまざまな図書館資料の収集整備と利用促進を図り、生涯学習活動の支援と地域情報の収集・保存及び発信を進めるとともに、子どもの読書活動を推進します

団塊の世代や子育て世代など市民の学習活動を支援し、交流の場として活用できる図書館づくりを進めるとともに地域の歴史、文化、行政に関する資料のデジタル化を進め、情報の発信に取り組みます。

子どもの読書推進計画を策定し、子どもの健やかな成長を支える読書活動を推進します。

中央図書館の開館 子ども読書推進計画の策定（再掲） 「あきる野市デジタルアーカイブ」の公開 レファレンスサービスの充実 学校支援事業・学校図書館支援事業の実施 図書館人材養成事業及び図書館市民協働事業の実施 障がい者支援事業の実施事業の実施



平成19年度『学校教育』の重点的な取組

豊かな人間性と未来を担う学力を備えた子どもの育成を図ります。

学ぶ意欲の高揚、学習習慣の確立など、学力の向上事業を推進します

研究奨励事業 教育委員会では市内の小・中学校を研究校に指定し、教員の授業実践力の向上を図ります。授業改善や家庭・地域との連携、教材開発など、子ども一人一人の学ぶ意欲を向上させ、学びの習慣化による確かな学力を定着させる取組を進めます。

研究推進校（市指定）：増戸小・増戸中（小中連携・読書） 東秋留小・東中（小中連携・体育）

研究協力校（市指定）：草花小（算数） 前田小（道徳） 西中（総合的な学習の時間）

日本の文化・伝統理解教育推進地域事業（都指定）：東秋留小、多西小、西秋留小、南秋留小、一の谷小、戸倉小、小宮小、五日市中 理数大好きモデル事業（国指定）：多西小、屋城小、南秋留小、五日市小、戸倉小、小宮小、秋多中、五日市中 特別支援教室に関する研究（国指定）：西秋留小、前田小、増戸小の特別支援教室（通級）

環境整備事業 小学校の低中学年を中心に国語・算数に、中学校は国語・数学・英語に教科の補助員を配置し、きめ細かい指導に努めます。また、学校図書館補助員による環境整備を進めます。

すべての子どもが生き生きと楽しい学校生活を送ることができるよう、特別支援教育を推進します

東京都の特別支援教育体制・副籍モデル地域としての成果をもとに、支援体制の充実を図ります。

理解啓発活動：各校の学校便り・保護者会等での説明、講師の派遣、啓発資料の作成

校内体制整備：校内委員会、コーディネーター 巡回相談：相談員の訪問、専門委員会、指導補助員 副籍事業の推進：連絡会、交流計画・評価 幼稚園・保育園等との連携：就学支援シート、ネットワーク 等

◆ ◆ いじめ・不登校^{ゼロ}への挑戦 ◆ ◆

子どもが互いに認め合い、大人が子ども一人一人の個性や可能性を生かせる環境が整えば、いじめや不登校は「^{ゼロ}0」にできる。このことへの挑戦をさらに進めるため、家庭、学校、地域の行動連携を今年度もより一層強化します。

命を大切にし、思いやる心をはぐくむ人権教育を推進します

子ども一人一人が自分の大切さを認め、他の人の大切さを認めることができる環境づくりを進めます。命はかけがえのないものであり、互いを思いやる心の大切さは、家庭、学校、地域の全ての場で、自分自身がかけがえのない存在であり、自己のよさや可能性を自覚できる環境の中でこそ育成されます。家庭、学校、地域が共通の課題意識をもって地域で推進する体制を整えます。

生きる力を育む読書活動推進事業（国指定）：昨年度から継続し、家庭、地域とともに読書活動を推進します。（増戸小・増戸中、五日市小、五日市中、戸倉小、小宮小）

豊かな体験活動推進事業（国指定）：平成9年度から継続している都立あきる野学園養護学校との学校間交流（西秋留小・一の谷小・西中）命を大切にする教育（秋多中）

あきる野の未来をひらく輝く子どもたちを育てます

東秋留小学校



校長 宮崎 慶一
副校長 安西 浩

教育目標
「人間尊重の精神をもとにして、豊かな人間性と未来を拓く学力を持った児童を育てる」を柱とし、「豊かな学び」「すこやかな体」「ひろい心」を設定しています。

学校経営方針
1. 児童にとって健康で楽しく生きがいのある学校(学級)づくりの推進
2. よくわかる楽しい授業の推進
3. 学校と地域社会や家庭との心と手をむすび、連携を密にした教育の推進

本校の特色
「通常学級」と「ひまわり学級」との相互交流および特別支援教育の推進
地域の豊かな自然と文化と人材を生かした地域に根ざした教育の推進

一人一人の個性に応じた指導を進め、どの子も「自分のクラスいいな」と心の居場所をつくり、確かな学力や基本的な生活習慣を身につけるために実践を深めます。特に、学校と地域社会と家庭が密接に連携をとり特別支援教育を進めています。
今年度はあきる野市の研究指定を受け、本校と東中学校が連携して、体育科を通しての研究を進めてまいります。PTA活動や青少年活動が活発で、市の大会にも多くの児童が参加しています。

南秋留小学校



校長 岩井 克昭
副校長 中島 靖二

基本方針
・基礎・基本を重視し、確かな学力を図る授業展開
・どの子も生き生きと安心して学校生活を送ることのできる学年・学級づくり
・児童の生命を守り、健康で安全な学校
・地域と一体となった学校を目指し、開かれた学校づくりの推進

「美しい景色とピオトープ 子どもいきいき南秋留小学校」これが本校のキャッチコピーです。学校南側に広がる加住丘陵と秋川。体育館横にはピオトープ。昨年度は市の研究推進校として研究発表を行い、いきいきと学ぶ子どもたちの姿を全市に公開しました。

本校は美しい豊かな自然環境に恵まれた学校です。児童数は今年度700名を超えました。学級数20の市内で一番規模の大きい学校です。子どもたちは、その中で元気に遊び、生き生きと学習しています。平成18年度はあきる野市の研究推進校の指定を受け、秋多中学校との連携を踏まえて研究を進めました。
特に算数・数学科に焦点をあてて研究発表を行い大きな成果を挙げることができました。今年度は国語科を中心に授業改善を図り、授業の充実を目指します。

増戸小学校



校長 工藤 淳一
副校長 久朗津朋子

経営方針
「豊かな心を持ち、確かな学力を身につけた児童の育成」
「授業の充実」
「特色ある学校づくりの継続と発展」
「学校・保護者・地域・関係諸機関との連携と協力」
「内外に開かれた学校づくり」
を学校経営の柱とします。
めざす学校像について
「豊かな人間性と基礎的・基本的な学力の向上をめざす学校」

校庭正面にそびえる大木「香椿木」(ちゃんちんぼく)のように、大きく伸びよう!個性を生かそう!強く根をはらう!をめあてに、二期制の導入のもと、基礎基本を大切に、子どもの良さを伸ばし、地域に根ざした教育の推進に努めています。

校庭の「香椿木」は、芽吹き時の若葉が濃い紅色で、しだいに淡い紅色になり、やがて、若葉色から緑に変わる個性のある樹木です。昭和30年代に「増戸小の子ども達も個性豊かな子どもになるように」の願いが込められて植えられました。本校の良き伝統を継承しつつ、児童一人一人の良さや可能性を見つけ励まし、それが発揮できる教育活動を推進していきます。

多西小学校



校長 篠原 敬子
副校長 渡部 雅彦

教育目標
心豊かでおもいやりのある子
ねばり強くやりぬく子
明るく元気な子

平成19年度経営方針
笑顔と希望にあふれ、子どもも教師も明るく燃える多西小

規律と品格のある学校
信頼される学校
授業力を磨く教師集団
組織的な学校運営

開校134年の多西小学校は、歴史ある郷土と豊かな自然に抱かれ、地域や保護者の方々のご支援をいただきながら、「一人一人が生き生きと学び合う、明るい学校」を目指します。

多西小学校は、本年度も教職員全員でOJTにより指導法改善を促進し、教師の授業力を高めるとともに、算数科T・T指導に2名の担当者を配置、さらに5名の教員補助員、特別支援補助員・図書館補助員等を活用して個別支援をより充実させることで学力向上を図ります。また、地域との連携を深め、理数大好きモデル事業・日本の伝統・文化理解教育を推進していきます。

草花小学校



校長 高橋 志夫
副校長 浅原 伸行

教育目標
・海のように大きな心
・太陽のように輝く自分
・大地のようにたくましく

経営方針
『よさが生き、ともに輝く学校』づくり
・よさを生かす
・活力を引き出す
・ともに育てる

今年度も草花小学校は、保護者や地域の方々との連携し、さらに、開かれた学校を目指します。学校の目標は、『よさが生き、ともに輝く学校』(子ども・教師・PTA・地域のよさを活力を引き出せる学校)です。

今年度、以下の三つが、草花小学校の特色です。
一つ目は、地域、PTAそして学校が連携した『子どもの安全を守る草花小地域の会』の活動の充実です。各地域において、見守りやパトロールの輪が広がっています。また、PTAと学校が協力して作成した地域安全マップを生かして、子どもに安全指導をしています。
二つ目は、昨年に引き続き、子どもに基礎的・基本的な学力の定着を目指し、算数を取り上げ、全教職員で日々の授業改善を中心にさらに研究を深めます。
三つ目は、人間理解学習や特別支援学級との交流活動・共同学習をより充実させていきます。

五日市小学校



校長 榎本 茂
副校長 氏井 初枝

本校では全教職員の英知を集結して『知・徳・体・芸・勤』のバランスのとれた児童の育成を全力で目指します。

『知』:基礎的・基本的な内容をしっかり教えます。
『徳』:道徳で学んだことを、日常生活で実践できるように指導します。
『体』:体育の時間の充実と日常的な体力作り活動を盛んにします。地の利を生かした山登り遠足を行っています。
『芸』:歌唱・朗読・絵画等の日常の活動を盛んにします。
『勤』:勤労奉仕活動を盛んにし、働く喜びを感じることができるようにします。
「おそうじ」もていねいに教えています。

開校明治6年。校長室には初代からの校長先生の写真がずらりと並び、五日市小学校の発展を静かに見守っています。また廊下や、資料室には明治時代からの卒業写真がズラリと並んでいます。校庭には由緒ある木々が茂り、校庭に響き渡る鼓笛隊の演奏は、49年の輝かしい歴史を表しています。五日市小学校は全市に先駆けて平成18年度より「祖父母参観日」を行い大好評を得ました。輝く伝統に支えられ、地域に愛される落ち着いた学校です。

西秋留小学校



校長 竹川 博
副校長 坂本 満弘

人間尊重の精神を基調とし、個性豊かで、たくましく生きる、心身ともに調和のとれた児童の育成を目指し、次の教育目標を設定します。
心ゆたかな、たくましい子ども
思いやりのある心
考える力
じょうぶなからだ

秋川の清流にのぞみ、風光明媚な地にある。保護者の教育に対する期待と関心が高く、地域も、自分たちの学校という意識が強く、協力を惜しみません。地域活動も活発で、学校・PTA・地域の連携が密に保たれ、豊かな体験活動の充実を図ります。

こんな学校を目指します
人と人のかかわりを大切に、共に学び共に育つ学校
・安全な学校(学びやすい環境 安心して通える学校 誘い合い登校)
・あたたかい人間関係、交流にあふれた学校(地域との交流活動 あきる野学園との交流 外国人との交流 たてわり班活動 読み聞かせによる豊かな心の醸成)
・学びのある学校(算数の少人数指導 得意なことの見見 特色ある総合的な学習の時間 他の人のよさの見見)
・子どもや保護者や地域に開かれた学校(学校公開 サマースクール 道徳授業公開 学校評議員会 外部評価)

一の谷小学校



校長 岡部 廣
副校長 荒井 善雄

教育目標
・よく聞いてよく考える ・やさしい心
・最後までがんばりぬく

経営方針
教育活動全体を通して人権教育を推進し、人権に対する感覚や実践力を育てる。
基礎的・基本的な内容の確かな定着を図り、学ぶ意欲と自信を育てる。
特別な支援を必要としている児童の教育的ニーズに応じた指導を推進する。
自ら学び考え解決する力や表現力を育み、主体的に学ぶ力を育てる。
地域の様々な人や自然や文化とのかかわりを通した学びを重視し、豊かに生きる力を育てる。
心身の健康の保持増進や安全に対する意識を高めるために、「食」に関する指導や健康・安全指導を計画的に推進する。
地域社会の一員としての自覚や広く国際社会に対応できる力を育てる。
学校を開き、家庭・地域との連携を充実させ、「共有」の充実を図る。

国語と算数を少人数(20名程度)で指導。学力向上に力を入れています。一の谷小ならではの教育活動で、子どもたちが豊かに育っています。安全・安心な学校作りを進めています。(メール送信、FAX送信、学校安全ボランティアの活用等)

一の谷小学校は、秋川を挟んでサマランドと対面している、全館冷暖房完備の学校です。本年度で開校32年目を迎えます。開校当時、地域の方々から寄贈していただいた500本の木は、今でも地域の方々の手によって剪定が行われており、まさに、地域の学校に対する熱い思いに支えられている地域あつての学校といえます。現在の学級数は7学級で、児童数は211名です。
国語と算数の2教科で少人数指導を実施しています。15分モジュール学習の取り組みとともに、基礎学力をつける指導の充実を図っています。あきる野学園との交流は8年目を迎えます。学期1回の休日の学校公開。地域の経験豊かな方々から学ぶ指導体制の充実も図って

戸倉小学校



校長 倉田 守人
副校長 須崎 和英

教育目標
人権尊重の精神を踏まえる特色ある教育を展開する。
考える力と思いやりの心を育てる豊かな人間性や基礎・基本を身に付ける。
心身共に健康で、自ら学び実践する児童の育成。

子どもの姿
進んで学ぶ子
思いやりのある子
体を大切に子

＜このためにこんな学校を目指します＞
(1) 学ぶ力が育ち、確かな学力が身に付く学校
(2) かかわりを大切に、豊かでたくましい心が育つ学校
(3) 地域・保護者・学校が協働して子どもたちが安心して活動できる戸倉地区をつくる

4名の新入児童を迎え、全校児童34名で新学期がスタートしました。家族的な雰囲気大切に、少人数学級の利点を生かしたきめ細かな指導を展開し、基礎・基本を重視し、確かな学力の形成に努めます。

今年で開校134年を迎える戸倉小学校は、かつて戸倉城があった城山のふもとにあります。「愛鳥活動」と「青い目の人形」の学校です。春には花が、夏には清流が、秋には紅葉があり、冬には野鳥がくる豊かな環境に囲まれた学校です。また、地域全体で学校を支える温かい地域の中で子どもたちはのびのびと育っています。

屋城小学校



校長 加藤 純
副校長 岸田 俊昭

1. 人権尊重教育と特別支援教育の推進
2. 「確かな学力」を身に付けさせる授業の改善・工夫
3. 食育の全体計画のもとに生活指導の充実
4. 自然体験や生活体験を重視した生活実感のある学び方の工夫・創造
5. デジタル週案簿によるPDS(Plan Do See)の一括管理
6. 目的意識的な研究・研修組織の充実
7. ICT(Information Communication Technology)のリテラシーを身に付けさせる情報教育の推進
8. 「よく聞き、よく説明する」学校づくりの推進
9. 防犯・安全の地域ネットワークづくりの推進
10. 学校運営組織の充実・強化

本校では、教育の目標の「や(やさしい子)・し(しっかりした子)・ロ(ロマンのある子)」を合い言葉に、全教職員一丸となって、人権尊重の精神のもと、心身ともに健康で、豊かな児童を育てようとしています。

屋城小は、「安全で安心して学べる地域の学校」を目指しています。地域は、子ども達にとって、生活と文化、学びの拠点です。子ども達が家庭・地域から背負ってくるランドセルの中身を大切にしながら、学校として何をランドセルに入れて帰らせるのかを大切にしたいと考えています。どうぞご理解とご協力をよろしくお願い致します。

前田小学校



校長 佐藤 道孝
副校長 亀山 桂子

「命を大切に、ともに輝き生きていこう」
・仲良く - 自ら学び、考える力を育てる
・かしこく - 人の良さ、自分の良さを生かし合う
・たくましく - じょうぶな体とねばり強い心を育てる

基礎基本の定着・向上、人権教育・特別支援教育の充実を二本柱とし、地域との協力のもと、ボランティア活動、米作りなどの体験学習、ことばの教室(通級指導学級)を充実させています。

「前田っ子」の宝
しっかり掃除ができる。だから学校に入ると、明るくきれいだとなたも思います。
元気に挨拶ができる。だから、職員室や校長室に子ども達の元気な挨拶が飛び込んできます。
静かに話を聞くことができる。だから校長は朝会や儀式のときマイク無しで話をします。

小宮小学校



校長 赤松 優
副校長 坂口 悟朗

教育目標
気づき考え実行する子
物事に対する関心、考えを深める態度、進んで取り組む態度の育み
仲良く助け合う子
思いやる心、きまりと約束を守る態度、郷土を愛し誇りに思う心の育み
明るく元気な子
健康的な習慣、丈夫な体、活動的な態度、互いに認め合う心の育み

《目指す子ども像》
こ 行動する子
み 見つめる子
や やさしい子

泉湧き ヤマメが踊る 緑の里の学校

開校134年目となる本校は、『地域が自慢の学校』を目指しています。児童数減少が加速化する中で、小宮小を選択した保護者が「小宮小に入れてよかった」、小宮小に通う子どもたちが「小宮小で学んでよかった」、地域の皆さんが「小宮小があつてよかった」といわれる学校づくりを目指します。
そのために、少人数であることを徹底的に生かし、『小宮小だからこそできる教育活動』を推進していきます。

社会に誇れる子どもたちを育てます

秋多中学校



校長 丹治 充
副校長 渡辺 暁

いのちの尊さを深く自覚し、たくましく生き、進んで社会の発展に尽くす人を育成します。
『豊かな心を持つ』『たくましい体を作る』『しなやかな個性を磨く』
『学力の確実な定着を図り、豊かな体験活動を通して個性と創造力を伸ばす』
- 生徒と教師が共に燃え感動できる
秋多中学校 -

豊かな体験を通じた「いのちを尊ぶ教育」を推進しています。また、相互信頼を基盤とした「心の教育」の推進を図ると共に、感性豊かで「ありがとう」などの感謝の念がもてる指導を行っています。

生徒は素直で明るく、意欲的です。また、体育的・文化的な部活動がともに盛んで学校及び校外活動に多くの生徒が励んでいます。伝統ある地域で結びつきも強く、PTA及び青少年健全育成活動、秋多中学校区地区委員会をはじめ、様々な活動が盛んです。さらに、地域の学校に寄せる期待は大きく、協力的です。創立50周年を迎える今年度は、あきる野市のスローガン「人が育ち、人が輝く、あきる野の教育」のもと、生徒と教師が共に燃え感動できる秋多中学校を目指し、学校づくりに励んで参ります。

西中学校



校長 新井 俊敷
副校長 清水 和彦

- ・「本気」「元気」「根気」を合い言葉に、思いやりと規律と活力のある学校を目指しています。
- ・「思いやりの心を育む教育」を中心に据え、コスモス街道の整備やあきる野の学園との交流を通して、教育実践をしています。
- ・「基礎・基本の充実」を重点課題とし、T.T.や少人数による学力の基礎・基本、部活動や行事による生活の基礎・基本、障がいのある方々との交流による心の基礎・基本の充実を図っています。

あきる野市のほぼ中央に位置し、周囲を、都立あきる野学園、多摩養育センター、旧都立高校、富士通そして野菜やクリの畑に囲まれた、創立29周年を迎えた学校です。

すばらしい教育環境の中で、生徒は知・徳・体をバランスよく学んでいる学校です。学習では各教科はもちろん朝読書・選択を真剣に取り組んでいます。心の育成面では、行事や総合的な学習の時間を中心に、コスモス街道の整備や障がいのある人との交流・体験を通して「思いやりの心」をしっかりと学んでいます。健康・体力の面では、多くの部活動が東京都のトップレベルにあり、体育大会や行事に燃え、生徒は主体的に活動しています。

増戸中学校



校長 中道 司
副校長 岩下 伴雄

学力の定着・向上
・校内研修の充実
・授業改善
・増戸小学校との連携研究
生活指導の改善
・規範意識の確立
・教育相談機能・特別支援教育の充実
・生徒会活動の活性化
『開かれた学校』『危機管理に強い学校』づくりの推進
保護者や市民から信頼される教職員
適切な事務運営と、快適で安全な教育環境の確立

生徒の理想像として、「夢を持ち続ける人」・「進んで努力する人」・「思いやりのある人」を掲げ、保護者や地域との連携のもと、教職員が一丸となって学校教育を推進しています。

一小学校、一中学校の学区にあり、生徒同士、幼いときから慣れ親しみ、純朴で家族的な雰囲気のある学校です。地域から、活発な行事や挨拶を評価されています。少人数指導の充実と、「保育体験学習」、「福祉体験学習」、「職場体験学習」など多くの体験学習を、行政や保護者・地域の支援をいただいで実施し、成果をあげています。

11月10日 に関校60周年記念式典を実施する予定です。これから「地域から愛される学校」の伝統を守り続けます。

東中学校



校長 田代 和正
副校長 河智 健三

平成19年度スローガン「知性・感性・社会性」を育てる開かれた東中学校教育方針

- 1 豊かな「知性」を育てる教育の推進
生徒が自らの生き方において、自信を持って主体的に判断し、行動できるように、個性の伸張と充実・達成感が持てる教育を推進する。
- 2 豊かな「感性」を育てる教育の推進
生徒の健全育成の推進を図り、心の健康を増進し、節度と調和のある生活ができるように指導を充実させる。そのために道徳教育を充実させる。
- 3 豊かな「社会性」を育てる教育の推進
人間尊重の教育を推進するとともに、社会貢献の精神を育み、他者とともに安心して豊かな生活が送れるように、教育活動を充実させる。
- 4 開かれた学校づくりの推進
社会の変化に対応し、時代の要請に即した教育を進め、地域の教育力を活用して生徒に次代を担うために必要となる資質を身につける。
- 5 特別支援教育の推進
特別支援学級との交流を通して、心身に障がいのある人との相互理解を深める。
また、一人一人の健全な育成と発達が見られる学校体制を創造する。

東中学校は、「学ばせる教育」「引き出す教育」「感じ取らせる教育」を基本に、一日の授業を大切に、一人一人の生徒を認め、心のこもった教育環境を整えていきます。

東中学校は剣道部の関東大会出場を始め、吹奏楽部の東京都コンクール金賞連続受賞などの好成绩を上げています。また、昔から学力の東中学校と評判が高く、文武両道の学校です。誇りの持てる東中学校として教育活動を展開していきます。

御堂中学校



校長 石澤 輝安
副校長 古田 博己

人権尊重の精神を基調とし、自主・自立、真理の探究の精神に富み、心豊かでたくましい生徒を育成するため次のように教育目標を掲げています。

- 一、自ら学び自ら考え実行する生徒
- 一、理想に向かって向上努力する生徒
- 一、美しい心たくましい体の生徒

- (1) 少人数授業を通して生徒一人ひとりの習熟度の程度や興味・関心等に応じたきめ細かい学習指導を行い基礎的・基本的な学力の定着と向上を目指し指導しています。
- (2) 教育相談部を中心に、生徒の心のケアや不登校生徒への指導をスクールカウンセラーとともに組織的な相談活動を行っています。
- (3) 総合的な学習の時間の活動を通して、情報を読み取る力、情報をまとめる力、考える力、発表する力等を育成して多面的なものの見方や考え方を身につけるよう指導しています。

本校は、草花丘陵を背に、南には平井川、西に遠く奥多摩の山々を望む恵まれた地域です。保護者・地域の方々は本校の教育に大きな期待を寄せ大変協力的です。

生徒は明るく、素直で授業や部活動に熱心に取り組んでいます。生徒会では「あいさつは御堂の顔」をスローガンに取り組んでいます。また、「もったいない」運動にも取り組み実績をあげています。

五日市中学校



校長 加藤 高明
副校長 曾我 有二

教育目標

- ・よく考えて行動する生徒(自律)・進んで協力する生徒(協働)
- ・思いやりのある生徒(共生)・心身ともに健康な生徒(健康・安全)

めざす生徒像
自ら光り輝く基礎学力を身に付けた生徒

めざす教職員像
生徒のよさを引き出し、素質・才能を開花させることに生きがいを感じ、五日市中生への愛情は誰にも負けない誇りと確かな授業力をつけた自ら光り輝く教職員

めざす学校像
生徒が明日学校を楽しみに、教職員が指導に喜びを抱き、「あの学校は地域の誇りだ」といわれ得る地域に光り輝く五日市中学校

本校は、長い歴史と伝統を持ち、地域住民と保護者の期待に応えて育てられてきました。現在もこの伝統を生かし、学校・地域・保護者が三位一体となり教育活動を進めているのが特色です。

本校は伝統と歴史と豊かな自然環境に恵まれ、生徒は、充実した中学校生活を日々送っています。勉強(少人数授業等)や部活動、特別支援学級との交流、ガードレール清掃や様々なボランティア活動、活発な学校行事(運動会や音楽会)、地域行事への参加等が学校と保護者、地域の協力のもとに行われ、より高い教育効果を上げています。

今年度は、11月3日に、本校の開校60周年記念式典を実施する予定です。これからも開校以来の輝ける伝統を重く受け継ぎ、地域に愛される学校でありつづけたいと思っております。



日本の伝統・文化理解教育推進モデル地域として

日本の伝統・文化を理解し、 輝いて生きる、あきる野の子どもたちの育成

あきる野市教育委員会は、国際社会に生きる日本人としての自覚と誇りを養うとともに、多様な文化を尊重できる態度や資質をはぐくむ教育を推進するために、東京都から「日本の伝統・文化理解教育推進モデル地域」の指定を受けました。

この事業ではこれまで市内小中学校で進めてきた日本の伝統・文化理解にかかわる取組をもとにしながら自分の身近な地域や自国の伝統・文化の価値を理解し、誇りに思える子ども
自国の伝統や文化を世界に発信できる資質や能力をもった子ども
他国の伝統や文化を理解し尊重するとともに、互いに文化交流ができる子ども
を育てることを目的に、三年間にわたり、次の視点から授業の在り方を研究、実践し、教育課程への位置付けを明確にした取組を推進します。



お囃子に合せ舞う子どもたち（一の谷小）

地域・家庭との連携
学校ごとに地域の関係団体との調整を図り、地域の伝統・文化継承者による授業を実施したり、学校、家庭、地域の協力体制のあり方を整理したりします。

校内体制を整える
各校で日本の伝統・文化理解教育推進担当者を決めて、校内における研究・実践に向けての体制を整えます。

研究指定校を中心として
本年度は、次の8校を研究指定校として伝統・文化理解教育の全体計画を立てたり、国語科や社会科、総合的な学習の時間といった関係する教科等の年間指導計画を作成したりします。
（東秋留小学校・多西小学校・西秋留小学校・南秋留小学校・一の谷小学校・戸倉小学校・小宮小学校・五日市中学校）

平成十九年度の取組

実践事例集の作成・配布
伝統・文化理解を深める授業のあり方をまとめ、実践事例集を作成し、研究成果を都内の学校に広めます。

市内全校に拡大
次年度は、第一次の研究指定校における成果を踏まえて研究指定校を増やし、推進地域を拡大していく予定です。また、伝統・文化理解を深める体験学習のあり方や教材について整理し、研究指定校を市内全小中学校に拡大し、全的に推進する体制を整えていきます。

次年度以降の取組

具体的取組
国際姉妹都市やAET（英語指導助手）との文化交流
西秋留小 一の谷小
五日市中
稲作やなえ縄作り等の体験学習
東秋留小 西秋留小
南秋留小 一の谷小
竹細工・和紙・炭焼き等の体験学習
戸倉小 小宮小
囃子や獅子舞、神楽、歌舞伎の鑑賞・演技
東秋留小 多西小 一の谷小
和太鼓・琴等の伝統音楽
小宮小 五日市中



高尾山での全校探鳥会

長年にわたり、愛鳥教育を核とした自然とのかかわりを実践してきた戸倉小学校が野生生物保護功労者「環境大臣賞」を受賞しました。（全国で6件）戸倉小学校では、「高尾山での全校探鳥会」「学校周辺での全校探鳥会」「野鳥観察から地域の環境について考える実践」など恵まれた自然環境を生かした実践を特色ある教育活動の一環として継続的に進めてきました。鳥や動・植物などの自然に親しみ、自然を愛する心が培われ、環境を守ろうとする心情が育つ取組が認められました。戸倉小学校は五月十三日に行われた全国野鳥保護のつどいに出席し、表彰されました。

「愛鳥教育」で
環境大臣賞を受賞
戸倉小学校

てくてくあきる野

むかし発見!

第十話「あきる野に自由
民権の足跡を辿る」

これから梅雨の季節となりますが、ほんの少しだけ足をのばせば、秋川谷で自由民権運動に情熱をかけた人々の息吹に触れながら、緑濃い若葉と紫陽花の美しい景色を楽しむことができます。

秋川谷で自由民権運動が盛んになったのは、今からおよそ一三〇年前の明治一三年頃になります。全国的な民権運動のうねりの中、五日市勸能学校五日市小学校の前身に、豊富な知識と新しい人権意識をもった宮城県志波姫町(現栗原市)出身の千葉卓三郎が教員として赴任してきました。そして、時を同じくして、千葉卓三郎をはじめ、馬場勘左衛門、深沢権八ら三〇名ほどで学芸講演会が結成されました。この学芸講演会では、憲法や法律・政治について研究討議が重ねられ、それらをもとに千葉卓三郎が「五日市憲法草案」を起草したと考えられています。

この千葉卓三郎が教員として赴任してきた勸能学校は、明治六年に五日市、入野、深沢、館谷の四か村によって設立されました。当時の校舎は、五日市駅から西に進み、権田坂の途中にある観音堂付近にあった太子堂を利用したものでした。今では、当時の様子を伝えるものは残されていませんが、ここで千葉卓三郎は、深沢権八を始めとする多くの青年たちに影響を与えたことと思われま



五日市憲法の碑

折れると五日市中学校があります。校庭の一角には、彼らの功績を称えて「五日市憲法草案の碑」が建てられています。続いて、都立五日市高校の塀に沿って西に少し行くと、五日市郷土館があります。ここでは、当時学芸講演会で討論されたものを含む深沢権八の手書きの討論題集や、その他の五日市憲法草案に関する史料を見学することができます。また、敷地内に復原された古民家「旧市倉家住宅」でひと休みしてみたいいかがでしょうか。

さて、今度は松原街道を少し戻り、東町の信号から北へ約四

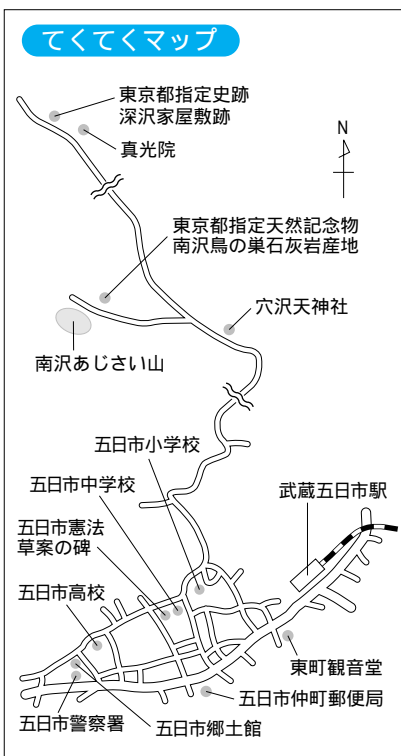
キロメートル程山道を行くと深沢という集落に着きます。真光院の西側には、かつて深沢家の屋敷がありました。現在ここは、東京都指定史跡「深沢家屋敷跡」として保存されています。昭和四三年、この土蔵の中から多量の古文書や書籍類が発見されました。その中に、全国でも屈指の私擬憲法草案といわれている「五日市憲法草案」が含まれていたのです。この五日市憲法草案は、二〇四条からなり、国民の基本的な自由や権利に関する規定が多く含まれているなど他に類を見ない憲法草案



深沢家屋敷跡

といわれています。また、土蔵からは当時千葉卓三郎や学芸講演会のリーダー的な存在であった深沢権八や講演会のメンバーが読み合っただと思われる図書も多く発見されました。今では深沢家の屋敷はなくなつてしまいましたが、門や袖塀、土蔵などが残されており、往時を偲ぶことができます。また、屋敷跡の北斜面には深沢家の墓があります。権八が眠る墓がひっそりと山間にたたずみ、私たち訪問者に、かつての民権運動の歴史を語ってくれているか

のようにです。そして道を少し戻り、西へ進むと「南沢あじさい山」の一面の紫陽花が迎えてくれます。美しい花々に囲まれて、先人たちの情熱に思いを馳せるのも楽しいでしょう。また、少し足を伸ばして松原街道沿いの「秋川溪谷瀬首の湯」で、一日の疲れを癒してみたいいかがでしょうか。



マイルポロウ市との
交流から

今年も、4月16日から9日間、国際友好姉妹都市のマイルポロウ市のミドルスクールの生徒6人と引率の先生方が本市を訪れました。ホームステイや中学校への体験入学、さらに伝統・文化や自然・歴史などに触れるなどの体験を通して、あきる野市の子どもたちとの貴重な交流の時間を過ごしました。

平成10年から始まったこのマイルポロウ市との相互交流からは、国際感覚あふれるホストファミリーやボランティアの方々が多く生まれ、今ではこの活動を中心から支えています。また、昨年度はマイルポロウ市から国際理解教育の講師を招き、1年間、一の谷小学校と西秋留小学校の子供たちの授業を行い、大きな成果を上げました。こういった交流の輪がさらに広がり、子どもとの交流だけに終わらせることなく、さまざまな分野への取組に広がることを期待されます。



増戸中学校での授業体験